

11月の衛研検査情報 ◀ 概要版 ▶



▶ 横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査などの結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。



横浜市内のマダニ類生息状況調査結果（令和元年）

市内の緑地や公園において、マダニ類の生息状況調査を行っています。

マダニ類は世界で800種以上、日本には約50種が生息し、全ての種が吸血寄生性で、主に哺乳類や鳥類、爬虫類に寄生します。

ダニ媒介感染症は、病原体を保有するダニが吸血の際に病原体を媒介することによって起こる感染症です。ヒトの主なダニ媒介感染症には、急性重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、ウイルス脳炎、日本紅斑熱、ライム病などが挙げられます。

中でもSFTSは国内で死亡例も報告され、問題となっています。SFTSの患者は西日本を中心に発生しており、関東では報告されていません。しかし、関東でも、SFTS抗体が陽性の哺乳類が確認されています。

主な結果 ▶ 今回、市内2カ所の公園で調査し、SFTSの主要媒介ダニと言われるフタトゲチマダニを含む、マダニ3種が確認されました。▶ 今後も市内の媒介マダニ類の生息状況について、基礎データを得て有事に備えるために、調査を継続して行きます。

食品中の動物用医薬品検査結果（令和2年9月）

畜産では、家畜の疾病の治療、予防および発育促進の目的で、動物用医薬品（抗生物質等）が使用されます。これらを使った食肉を食べて健康被害が出ることを防ぐため、食品衛生法により、食品の分類ごとに残留基準値が決められています。

主な結果 ▶ 牛の筋肉1検体、豚の筋肉1検体、羊の筋肉2検体、鶏の筋肉4検体、鴨の筋肉1検体、牛の脂肪1検体、豚の脂肪1検体の計11検体について検査を行いました。▶ その結果、全ての検査項目（合成抗菌剤・抗生物質・内寄生虫用剤）で不検出でした。

横浜市衛生研究所WEBページ情報（令和2年10月）

感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報などを提供しています。ここではアクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説します。



<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/geppo/inspection-inf.html>

主な結果 ▶ 横浜市感染症情報センタートップページ、ぎょう虫症、インフルエンザワクチン、トキソプラズマ症、大麻（マリファナ）、B群レンサ球菌感染症などに関する記事へのアクセスが多くみられました。▶ インフルエンザの流行期を前に、予防接種への関心が高まっていたようです。▶ 総件数は353,213件でした。